

# 千代田区神田淡路町二丁目の WATERRAS における学生の地域活動の参加方策に関する研究 —(その1)学生マンションの活動実態に着目して—

Study on the participation measures of student activities in WATERRAS community kanda awaji,chiyoda-ku

—(Part1)Focus on the actual activity of the student apartments—

○土屋光太郎<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>2</sup>, 押田佳子<sup>2</sup>, 山田純矢<sup>3</sup>

\*Koutarou Tsuchiya<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>2</sup>, Keiko Oshida<sup>2</sup>, Junya Yamada<sup>3</sup>

Abstract: We investigated the motivation for participation in community activities about student apartment residents at WATERRAS. As a result, we clarified that mixed community of student residents and the neighbor residents was weaker than local organization.

## 1. 研究背景

1-1. 都心部の人口変動—高度成長期以降のわが国の都心部では、地域活動<sup>[1]</sup>を実施する町会や商店会などの地元組織が、夜間人口の減少に伴う構成員の減少により弱体化した<sup>[1][2]</sup>。しかし近年、減少していた夜間人口数は増加しつつあり、新しく住まう人々の多くは、マンションをはじめとする共同住宅に入居している<sup>[3]</sup>。これらの人々は、地域活動に対しての関心が低く、地元組織との関係が希薄であるといわれている<sup>[4][5]</sup>。

## 1-2. 学生による地域活動—現在は、様々な地域で学

生による地域活動が実施されており、彼らの持つ行動力や発想が注目を集めている<sup>[6]</sup>。また、学生の活動が契機となり、共同住宅に住まう関心の低い人々が積極的に活動に参加するようになった例が見受けられることから、学生による地域活動は、彼らを活動に参加させる手立てとなりえよう<sup>[7]</sup>。

1-3. 千代田区神田淡路町二丁目の地域活動—東京都千代田区においても、昭和30年代から大きく減少していた人口が、近年の大規模マンション開発などの影響で増加しつつある<sup>[3][8]</sup>。また、千代田区神田淡路町二丁目を対象に実施された「淡路町二丁目西部地区再開発事業」の一環として、2013(平成25)年に竣工した複合施設 WATERRAS(以下、ワテラス)も人口増加に貢献している(Figure1, Photo1)。さらに、この再開発を契機に、今後の地域の継続的な地域活動を担う組織として、一般社団法人淡路エリアマネジメント(以下、淡路エリマネ)が設立された<sup>[9]</sup>。この淡路エリマネは、基本理念を「人情・情緒を引継ぎ、大きなコミュニティをはぐくむ—新・旧住民、就労者、学生を交えたコミュニティづくり」とし、主な取り組みを「①地域交流活動」「②学生居住推進活動」「③地域連携活動」「④環境共生・美化活動」の4つに分類している。そして、これらの取り組みの中で特に注目を集めているのが、敷地内のアネックス棟14・15階に住居を構えるワテラス学生マンション(学生マンション)に入居する学生36名と連携して実施する「②学生居住推進活動」である。この取り組みは、周辺の家賃相場と比較して、3割ほど安く学生を入居させることと引き換えに、淡路エリマネが提供する地域活動を実施した学生に対して、一つの活動につき0.5から4ポイント程度を付与し、年間12ポイントの取得を義務付けるものである<sup>[10][11]</sup>。なお、このような取り組みを都心部において実施している事例が存在しないことから、淡路エリマネの取り組みは、都

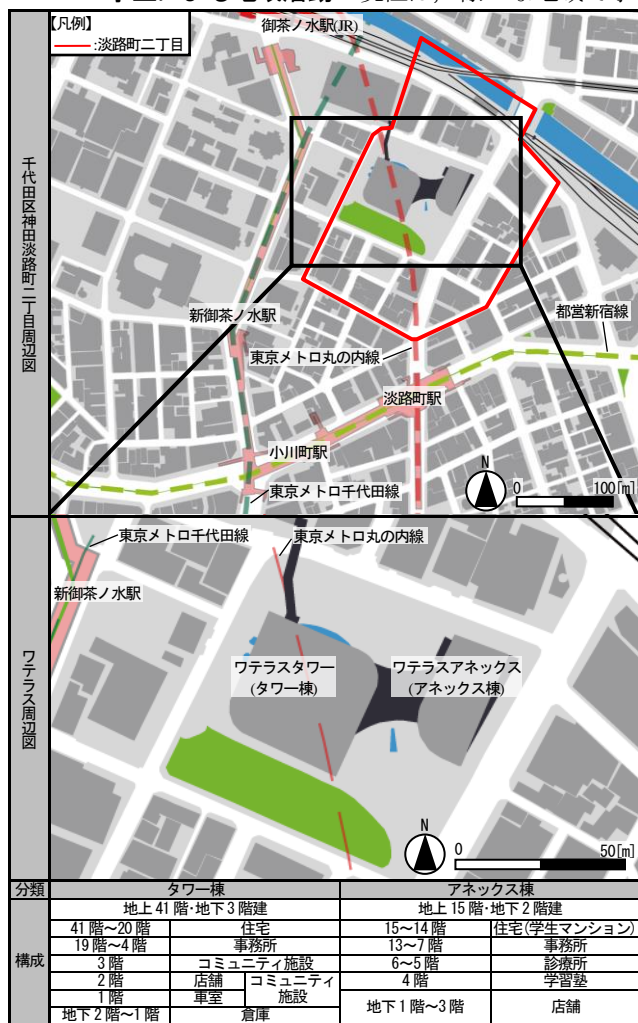


Figure1 Overview of the study area (This is original figure by authors)

Table1 Outline of the survey (This is original table by authors)	
調査方法	ヒアリング調査
調査期間	2014年7月23日~9月18日
調査対象	淡路エリマネ・学生入居者9名
調査項目	学生入居者が実施する活動の内容・学生入居者とタワー棟入居者の関わり

1: 日大理工・院(前)・不動産 2: 日大理工・教員・まち 3: 日大理工・学部・建築

心部において学生が地域活動へ参加する際の新たな手法となる可能性があるといえよう。

**2. 研究目的**—本研究では千代田区神田淡路町二丁目をケーススタディとして、共同住宅に入居する人々が地元組織と共同で地域活動を実施する際<sup>※2</sup>に、学生のもつ行動力や発想などが、どのように寄与するかを把握し、都心部における学生の新たな地域活動参加方策を提案することを目的とする。なお、本稿では学生マンションに入居する人々の活動実態に着目し、淡路エリマネが実施する取り組みの今後の方向性について考察する。

**3. 研究方法**—本稿では淡路エリマネと「アネックス棟」の学生マンションに入居する人々(以下、学生入居者)へのヒアリング調査から、学生入居者が実施する地域活動の実態を把握する(Table1)。

**4. 研究結果**

**4-1. 学生入居者の活動内容**—学生入居者の実施する活動は「(1)必修活動」「(2)選択必修活動」「(3)選択活動」の3つに分類される。またこれらの中で、ポイントが付与されるものは、「(3)選択活動」のみであり、「(1)必修活動」「(2)選択必修活動」は取得ポイント数とは無関係に、参加を義務付けられている(Figure2)。以降ではこれら3つに分類された活動の内容を把握する。

**(1) 必修活動**—必修活動とは、ワテラスの敷地内全体で年2回実施される防災訓練への参加である。なお、彼らはこの訓練において、タワー棟に入居する人々(以下、タワー棟入居者)の避難誘導や安否確認などを担っている。

**(2) 選択必修活動**—実行委員会とよばれる活動と、旧来から千代田区内で実施されている祭事などに参加する活動の2つから構成されている。前者は学生入居者36名がA~Fの6班に各6名ずつわかれ、それぞれが月1,2回のミーティングを行いながら、ワテラスの敷地内で実施されるイベントの企画などを行うものである(Table2)。後者は、淡路エリマネに提供される「神田祭」や「夜警」といった活動の中から希望する活動を年間で1つ選択し、参加することを義務付けるものである。

**(3) 選択活動**—3つの活動の中で最も日常的に実施されている活動であり、クリーンアップ活動と呼ばれるワテ

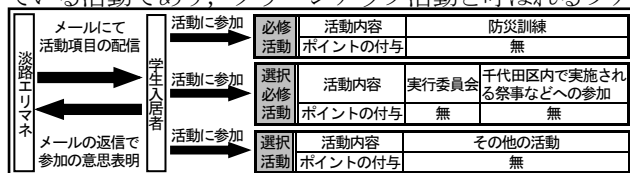


Figure2 Mechanism of regional activities (This is original Figure by authors)

Table2 Profile of the group activity

所属人数	学生入居者(36名)					
	6名	6名	6名	6名	6名	6名
チーム名	A班: マルシェ	B班: Free Awaji Book	C班: Essence of Japanese+Library Project	D班: 料理教室	E班: 子ども+てづくり市	F班: わざっが+ハロウィン+α
活動内容	敷地内の公開空地で全国の様々な地域の食材を販売	ワテラス周辺の飲食店の情報やワテラスで行われるイベント情報などを記載した情報誌の発行	Essence of Japanese Library Project	料理教室や食材を使ったワークショップなどの開催	子ども+子どもを対象とした遊び場提供などの各種イベントの実施	日本の職人達、技術を再提案するために古武術・双水執流による演舞などのイベントを実施

ラス周辺の清掃活動や、「(2)選択必修活動」の実行委員会で企画された「WATERRAS マルシェ」をはじめとするイベントの補佐など、多種多様な活動によって構成されている(Photo2)。

**4-2. 学生入居者とタワー棟入居者の交流実態**—Table3に、学生入居者が関わりのあるタワー棟入居者の人数を示す。これをみるとタワー棟入居者の中で関わりがある人数は5人から0人と、比較的少数である。また、9名中7名は、タワー棟入居者全体の人数と、地元組織である淡路町二丁目町会の所属人数が一致していることを把握した。これらのことから、学生入居者は地域活動で頻繁に関わる淡路町二丁目町会に所属する人々以外とは関わりが希薄であるといえよう。

**5. まとめ**—本稿では、学生入居者の活動実態を把握した。その結果、学生入居者はタワー棟入居者との交流において、淡路町二丁目町会に所属する人々以外とは関わりが希薄であることを捉えた。そのため、今後の淡路エリマネには、学生入居者とタワー棟入居者の交流機会の増加や、限られた交流機会で接点をもった両者が継続して交流できるような活動の実施が望まれよう。

**6. 補注・参考文献**

- ※1 本稿では多様な主体が、商店街のイベントなどで、地域内外へ人々を呼び集め、地域内外および内部同士の人々の交流をはたかせることを目的とした一連の活動。または、地域内における問題意識をもち、その解決のために行う活動を通じて「地域活動」と定義する。
  - ※2 本稿では共同住宅に住まう人々が地元組織と共同で地域活動を実施することの定義を共同住宅に住まう人々が地元組織に所属し、清掃活動や祭事など、地元組織の存続のために必要最低限の活動を実施することとする。
- [1] 浜岡政好:「人口の都心回帰と新しいコミュニティ形成の課題」, 佛教大学総合研究所紀要, 第16号, p171, 佛教大学総合研究所, 2009.3.25 [2] 奥田道大:「21世紀システムとしての大都市とコミュニティ」, 21世紀日本のネオ・コミュニティ, p290, 財団法人東京大学出版会, 1993.6.25 [3] 総務省「平成7年〜22年国勢調査」 [4] 奥田道大:「都心型コミュニティの可能性」, 地域開発, 通巻237号, p10, 日本地域開発センター, 1984.6.1 [5] 東京都都市整備局 HP [6] KP 書籍プロジェクト:「はじめに」, 学生まちづくりの奇跡 p i, 株式会社学文社, 2012.1.20 [7] 公益財団法人東京都防災・建築まちづくりセンター HP [8] 千代田区 HP [9] 松本久美:「神田淡路町 WATERRAS(ワテラス) 地域との共生をめざして」, 都市計画 vol.63, no.1, p60, 公益社団法人日本都市計画学会, 2014.2.25 [10] 日本経済新聞 HP 2013年3月20日記事 [11] 淡路町二丁目再開発組合・一般社団法人淡路エリアマネジメント:「淡路町二丁目西部地区、再開発とコミュニティの再生(その3)〜再開発とまちづくり団体「一般社団法人淡路エリアマネジメント」の活動について」, 市街地再開発, 9月号, 第521号, p11, 公益社団法人全国市街地再開発協会, 2013.9.25



Photo1 Tower Building and Annex Building (This is original Photo by authors)



Photo2 State of WATERRAS Marche (This is original Photo by authors)

Table3 Results to the residents of the student apartments (This is original table by authors)

調査対象	A氏 B氏 C氏 D氏 E氏 F氏 G氏 H氏 I氏									
	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体
タワー棟入居者の中で顔見知りの(すれ違ったら挨拶をする)人数	2人	1人	1人	4人	5人	1人	0人	5人	0人	0人
	2人	1人	1人	1人	5人	1人	0人	3人	0人	0人
	0人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	2人	0人	0人

(This is original table by authors)